

## ～IDEC横浜 上海事務所～ 中国における先端技術の市民利用(中国・上海)

2023年は横浜市と上海市との間で友好都市提携50周年を迎えるという巡り合わせもあり、上海を中心に活動した一方、去る2024年は中国各地に出張等で出向く機会が増えた。そこで目にした、テクノロジーが日常生活に浸透している光景について、今回は紹介していきたい。

(上海事務所所長 浦井)

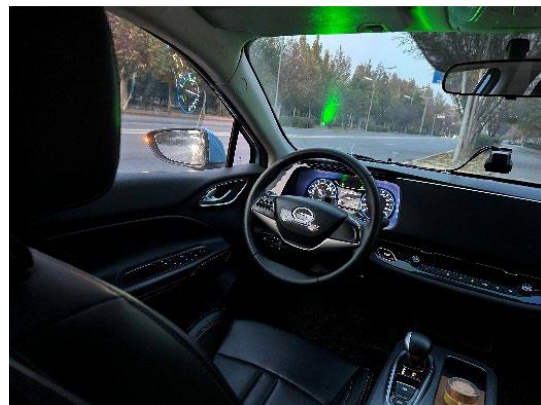
### 自動運転のロボタクシー

日本にいても報道でよく耳にする自動運転について、北京市や武漢市といった各都市で、レベル4(特定条件下における完全自動運転)のロボタクシーが公道や高速道を走行している。走行エリアは都市部とその周辺エリアに限られるものの、車で1時間程度の距離を利用することができる。実際に乗車して驚くのは、人が運転するよりも安心を感じられることである。車線変更も、自転車を避ける動作も、自然で無駄がまったくない。また、中国において外国人である私がスマートフォンのアプリを通じて配車し、乗車から支払いまで完結できるという利便性にも驚き。夢物語ではなく、まさに未来はここにあり。

日本ではまだ導入が進んでいない「低空経済\*」の分野でも一例を挙げたい。

上海市内の公園で誰もがスマートフォンのアプリを経由して近隣のカフェ等からのドローンでの配達を受けられる。もちろん現在は指定の場所・指定の店からしか注文できないといった実証実験に近い形のサービスではある。しかし、実際に注文をしたところ、ストレスなく注文でき、物を受け取ることができた。

\*空飛ぶクルマやドローンをはじめとする民用航空機を中心に、乗客・貨物輸送を含めた低空飛行活動によって、関連分野の発展をもたらす経済形態を指し、2023年には5,059 億 5,000 万元(約10兆6,250億円、1元＝約21円)に達する見込みの市場規模があるとされている。(出所:ジェトロ「ビジネス短信」 <https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/04/9631ac1f3b4a6dca.html>)



北京市における自動運転ロボタクシー乗車

### 技術革新のカギはスピード感

中国における技術革新は競争に裏打ちされたスピード感が大きな特徴のひとつである。誰もが聞いたことのある「自動運転」「ドローン」といった技術を、一般市民が生活する上で便利に使えるように落とし込み、日常が目に見えて変わる様子を体感すると、「日本と中国」という軸で優劣を競うのではなく、優れたものを取り込むことで、そしてそれらを横浜らしくアレンジすることで、市民の利便性を高めていく発想の大切さをつくづく実感する。

当事務所も、中国当地に拠点を構えるからこそ得られる鮮度の高い情報や体感を強みとして、こうした先端技術の動向に目を凝らしながら、横浜企業と中国企業のビジネス機会の模索や発信を続けることで、少しでも横浜にいる方々の中国に対する見識を深め、ビジネスにつながるよう、サポートを継続していきたい。



上海市におけるドローン配達

【執筆者】IDEC横浜上海事務所 所長 浦井将文

【問合先】公益財団法人 横浜企業経営支援財団(IDEC横浜) イノベーション支援課国際ビジネス支援担当

TEL:045-225-3730 E-mail: [global@idec.or.jp](mailto:global@idec.or.jp)

相談申込みはこちら

<https://www.idec.or.jp/business/overseas/consultation.html>

または、右の二次元コードからどうぞ

